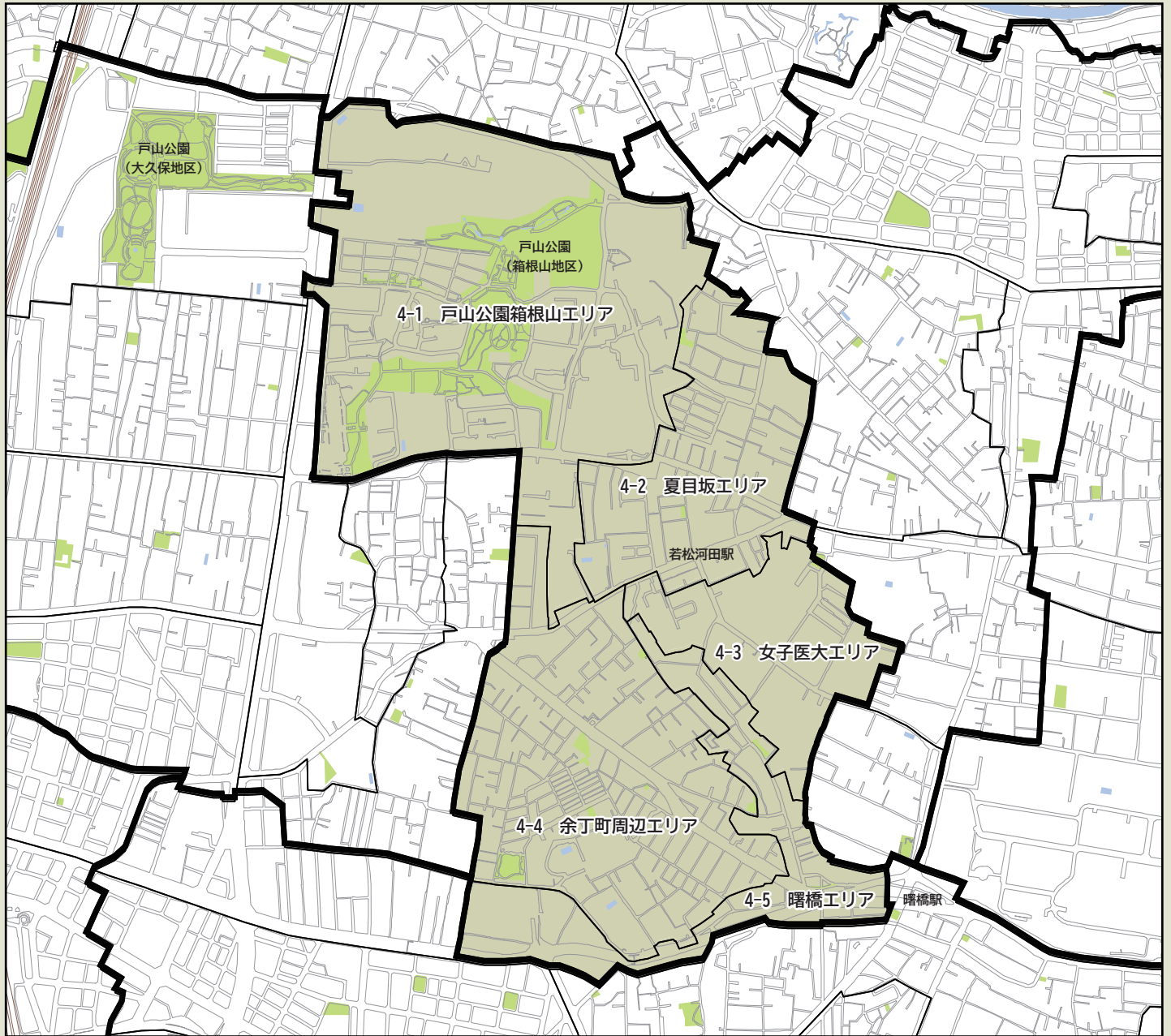


4 若松地域

若松地域は新宿区のほぼ中央に位置し、江戸時代の敷地割りが色濃く残っている場所です。台地上には閑静な住宅地の良好な景観が広がっており、南側の谷地沿いでは商店街の賑わいあふれる景観となっています。また、現在新たな都市計画道路*の整備などが進み、今後景観の変化が生じることが予想されます。



4-1 戸山公園箱根山エリア

戸山公園と大規模施設群を中心としたみどり豊かなまちなみへ

4-2 夏目坂エリア

坂道や寺社の雰囲気を活かした落ち着いたまちなみへ

4-3 女子医大エリア

歴史ある建築物を活かした大規模施設群が周囲に溶け込むまちなみへ

4-4 余丁町周辺エリア

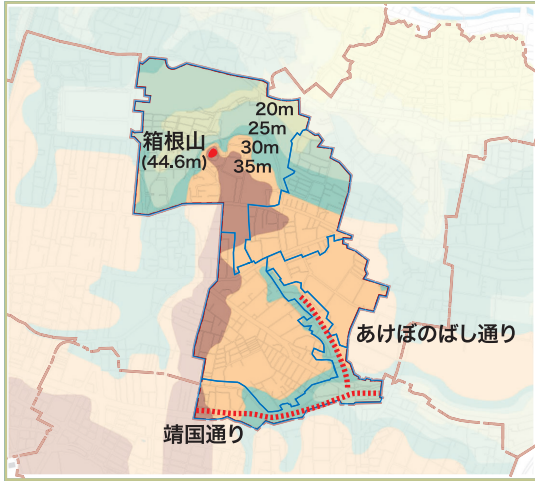
賑わいと身近なみどりを感じられるまちなみへ

4-5 曙橋エリア

あけぼのばし通りと靖国通りの地形を活かした賑わいあふれるまちなみへ

地域の概要

変化に富んだ地形



若松地域の地形

広がる牛込台地

地域の大半は、牛込台地の平坦な台地上に位置しています。台地上には、大規模施設群や良好な住宅地が広がっています。



【4-4 余丁町エリア】
整備された台地上のまちなみ

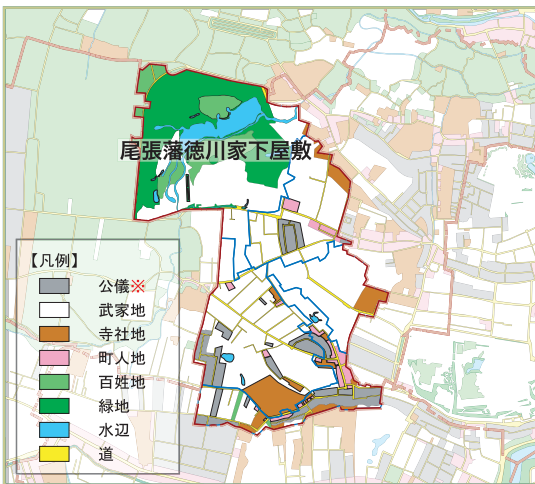
台地に切り込む二つの谷地

戸山公園の西側と靖国通り、あけぼのぼし通りを中心に2つの谷地が台地に入り組む複雑な地形となっています。そのため崖上からは広がりのある眺めが得られます。



【4-2 夏目坂エリア】
広がりのある眺望を得られる坂道

まちの記憶や文化



江戸時代末期の土地利用

※箱府直轄の施設用地。火除地や河岸などの地、同役の御家人に一括して与えられた粗屋敷地も含む。

大名屋敷を継承した大規模敷地

尾張藩徳川家下屋敷であった戸山公園など、エリア内には大名屋敷を継承した大規模敷地が多数あります。「戸山山荘」と呼ばれた尾張藩徳川家下屋敷の庭園が描かれた絵巻物には、地形を活かしてつくられた奥深のみどりや滝なども登場します。明治維新以降、戸山公園一帯は軍用地となり、現在でも当時をしのばせる遺構が残っています。



【4-1 戸山公園箱根山エリア】
尾張藩邸の庭園を継承した戸山公園

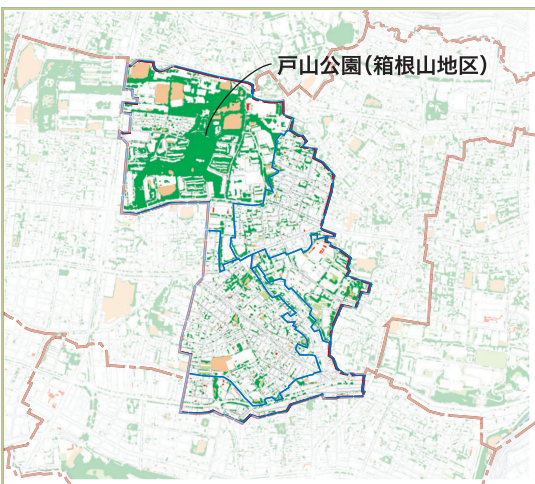
風格ある歴史的な建造物

旧小笠原伯爵邸や東京女子医科大学旧1号館、学習院女子大学など、風格ある歴史的な建造物が残っており、重要な景観資源*となっています。



【4-3 女子医大エリア】
歴史的な建築物が地域を象徴する

水とみどり



緑被現況分布図

戸山公園(箱根山地区)の豊富なみどり

戸山公園(箱根山地区)は、区内で一番標高の高い「箱根山(44.6m)」や池を埋め立てた窪地などがあり、変化に富んだ地形が特徴となっています。その変化に富んだ地形と豊富なみどりとが合わさって、奥深い緑地が形成されています。



【4-1 戸山公園箱根山エリア】
まとまった緑地を有する都市公園

大規模施設や寺社、住宅のみどり

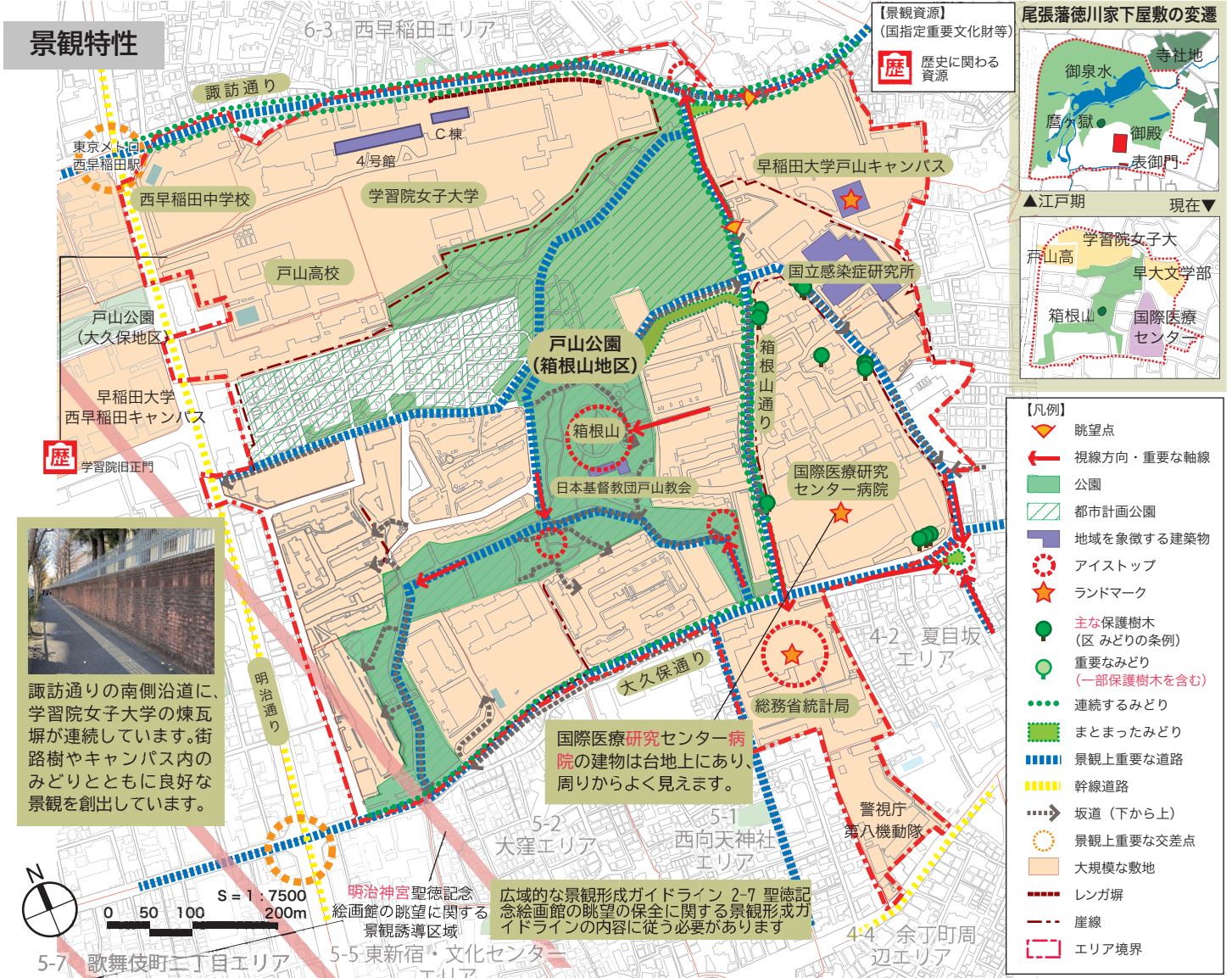
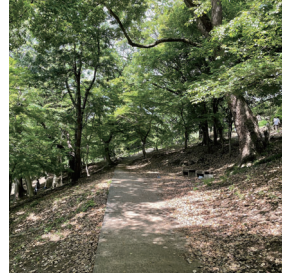
大規模施設や寺社には、まとまったみどりがあり、地域に潤いを与えています。特に、成女学園や善慶寺など斜面地に位置するみどりは、谷地からの眺めに潤いを与えています。また、地域内の住宅の軒先でも積極的な緑化がなされており、みどりに富んだ景観が広がっています。



【4-5 曙橋エリア】
谷地の眺めに彩を与える斜面緑地

4-1 戸山公園箱根山エリア

戸山公園は、尾張藩徳川家下屋敷で、かつては戸山山荘と呼ばれていました。その中心には区内で最も標高の高い「箱根山(44.6m)」があります。本エリアー帯は、明治時代より軍用地として活用され、軍用地であったことを伝える遺構が点在しています。周囲には、早稲田大学や学習院女子大学、都営住宅、国立国際医療研究センター病院などの大規模施設群があります。



諏訪通りの南側沿道に、学習院女子大学の煉瓦塀が連続しています。街路樹やキャンパス内のみどりとともに良好な景観を創出しています。

1. 歴史あるみどり



尾張藩徳川家下屋敷の庭園であったこのエリアには、窪地を活かした、ため池がありました。庭園の一部であった「箱根山」は、区内で最も標高が高く、その頂上は高く茂った公園の木々に囲まれています。

2. みどりで覆われた歩行者空間



周囲で生活する人々にとって戸山公園は、憩いの場であるとともに、生活動線としても使われています。そのため、その周辺においても公園と一体となった快適な歩行者空間の創出が必要です。

3. 大規模敷地群



エリア内には、大学や都営住宅、医療施設等が多数存在しています。それぞれの持つまとまったみどりを連続させ、快適で楽しめる歩行者空間の創出が必要です。

戸山公園と大規模施設群を中心としたみどり豊かなまちなみへ

公共用地とまち、公園が一体となり、多様な都市機能を有するみどりあふれる「都市の森」を形成する。

景観形成の方針

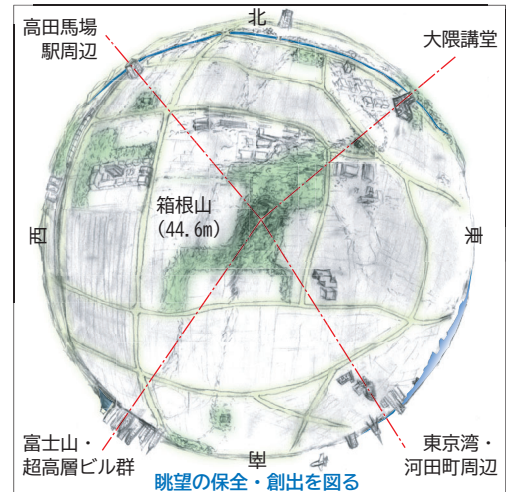
1. 戸山公園周辺ではまとまったみどりを保全、創出する

景観形成の考え方

旧尾張藩邸下屋敷であった戸山公園一帯の歴史や地形を**活か**し、公園と周辺が一体となってまとまったみどりを創出する。

具体的な方策

- 戸山公園箱根山周辺のみどりを保全する
- 大規模敷地の計画では、まとまった緑化を行う
- 中・小規模敷地の計画では、道路沿いで積極的に緑化を行う
- **単なる緑化にとどまらず、生物が生息できる環境の充実を図る**



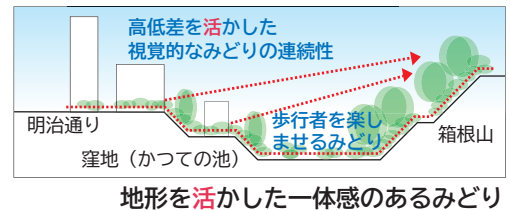
2. 散策したくなる魅力的な歩行者空間をつくる

景観形成の考え方

エリアを南北に貫く箱根山通りでは魅力的な坂道景観をつくり、また、戸山公園周辺の道路では、歩く人に快適な魅力ある景観をつくる。

具体的な方策

- 外壁の素材や色彩は、周囲の落ち着いた雰囲気と調和したものとする
- 擁壁の上部の塀・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など）
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 戸山公園への動線となっている道路沿いでは、歩道と連続した歩行者空間をつくり緑化を行う



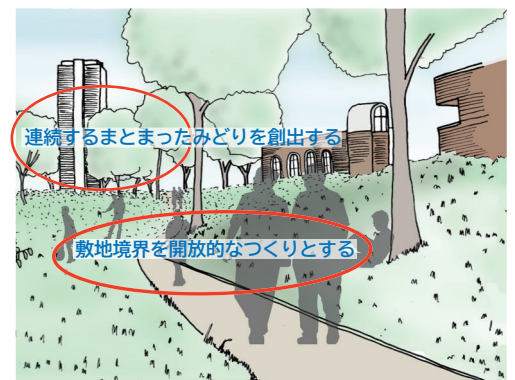
3. まちに溶け込む大規模施設群の景観をつくる

景観形成の考え方

エリア内に多数存在する大規模施設（大学や医療・福祉機関、等）の敷地境界を開放的なものにし、周囲を歩く人が楽しめるような景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 道路沿いには十分な広さの空地を設け、樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 屋上緑化や壁面緑化を積極的に行う
- **ベンチの設置やバリアフリー化など、誰もが快適に過ごせる公共空間*の充実を図る**



まちに溶け込む大規模敷地群

4-2 夏目坂エリア

夏目漱石の父親が、屋敷前の坂に自分の名前を付けたことが、坂道の名前の由来となっています。北側の斜面地には寺社や住宅が建ち並ぶ落ち着いたまちなみがあり、エリアの中心を通る大久保通りや団子坂沿いには、小規模な店舗の連続により賑わいあふれるまちなみとなっています。



景観特性



夏目坂からは、東側には早稲田大学喜久井町キャンパスの斜面地のみどり、西側には寺院の境内の樹木が目に入ります。

不整形な道路基盤により、数多くのアイストップが生まれています。

下戸塚坂からは北側に向かって見晴らしの良い眺めが得られます。

大久保通り沿いには間口の狭い店舗が連なっています。

交差点のみどりがアイストップになっています。

団子坂からは西新宿周辺の超高層ビル群が見えます。

放射第25号線は現在拡幅整備中です。

1. 歴史ある坂道の景観



エリアの東側の斜面地上を夏目漱石とゆかりのある夏目坂が南北に走り、南側で大久保通りと団子坂に突き当たります。夏目坂沿いには寺社が多く、また、下戸塚坂の上からの眺めは、遠くまで見通すことができ、地形を感じる立体的な景観となっています。

2. 南北の良好な住宅地の景観



エリアの北側と南側には住宅地があります。南側の住宅地は台地上にあり、比較的ゆとりのある良好な住宅地です。北側の住宅地は斜面地上にあり、生活感のあるみどりあふれる路地などがあります。また、アイストップ*となる場所が多く存在しています。

3. 幹線道路沿いの商店街の景観



大久保通りは北側の斜面地と南側の台地のちょうど狭間に位置しています。周辺居住者の日常生活を支える店舗が建ち並び、賑わいあふれる快適な歩行者空間となっています。

坂道や寺社の雰囲気を活かした落ち着いたまちなみへ

坂道やまとまったみどりなどの景観資源*を活かした、住宅地の落ち着いた景観をつくる。

景観形成の方針

1. 由緒ある坂道を活かした景観をつくる

景観形成の考え方

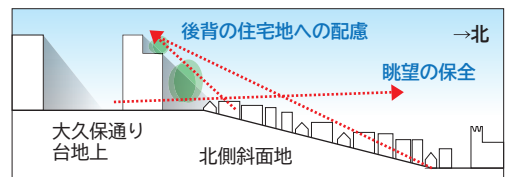
夏目坂や団子坂、下戸塚坂等の由緒ある坂道沿いでは、坂道の歴史に配慮した落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材、意匠*は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 擁壁の上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など）
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- アイストップとなる場所では、積極的に緑化する
- 坂上からの見晴らしのよい眺望を保全する



北斜面の坂道景観



北側斜面住宅地への配慮

2. 落ち着いた住宅地と調和した景観をつくる

景観形成の考え方

北側に広がる斜面住宅地や南側の台地上の住宅地の落ち着いたまちなみと調和した景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないように配慮する
- アイストップとなる場所では積極的に緑化する
- エントランス部などには暖かみのある照明を使用し落ち着いたまちなみと安心感のある夜間景観を創出する



アイストップのみどり

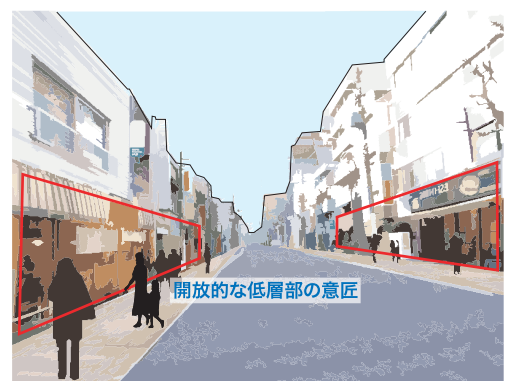
3. 賑わいあふれる幹線道路沿道景観をつくる

景観形成の考え方

大久保通り沿いでは、低層部*の賑わいを創出し快適な歩行者空間をつくる。また、周辺住宅地の住環境へも配慮する。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
- スカイライン*や壁面線、低層部のファサード*の連続性に配慮する
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 低層部の賑わいを感じられるよう、開放的な意匠とする
- 低層部の賑わいを創出しつつ安心感を感じられる照明計画とする
- 住宅地とのボリュームギャップを解消する（住宅地側は階数を減らし、屋上緑化をする など）
- 住宅地側には空地をとり、積極的に緑化する

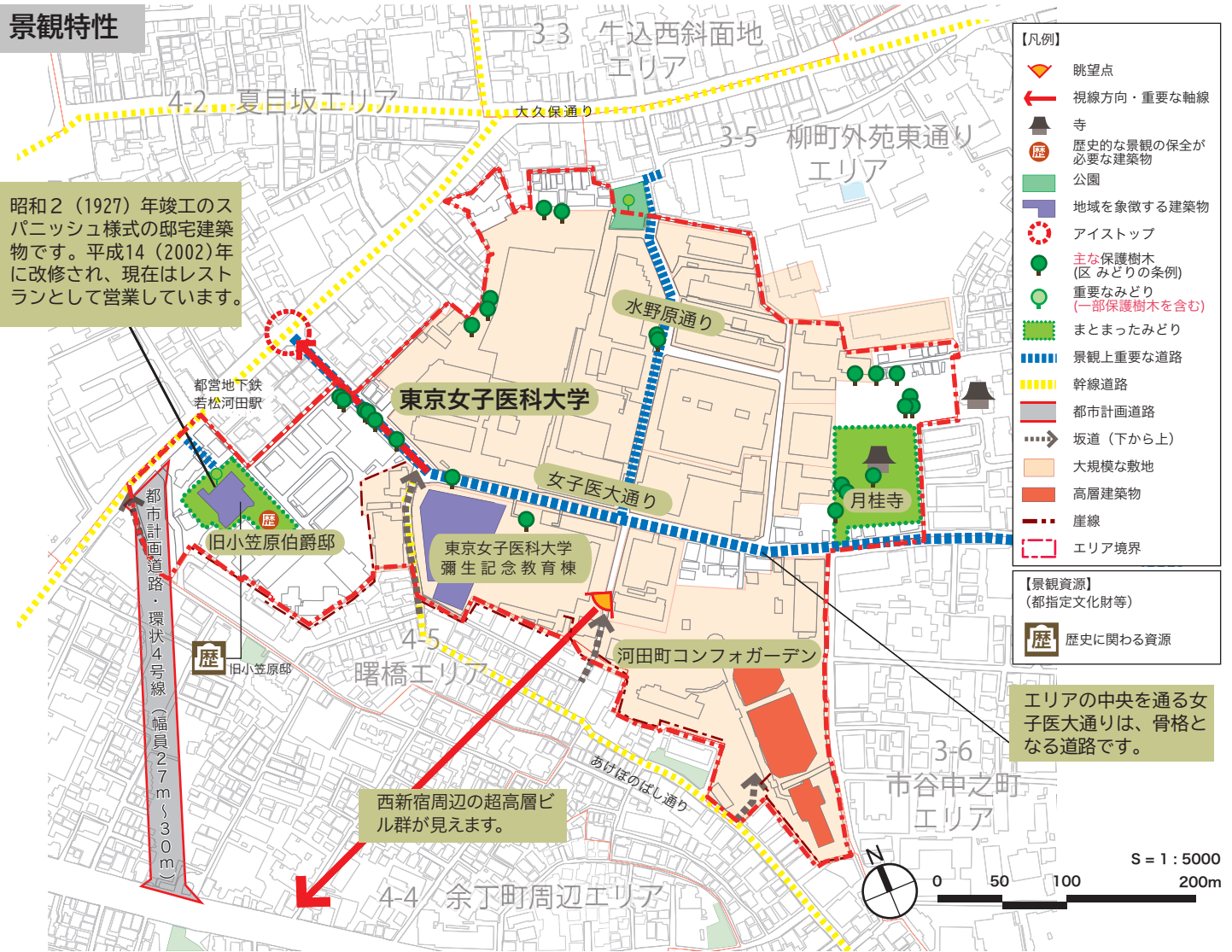


賑わいあふれる歩行者空間

4-3 女子医大エリア



エリアの大部分を占める東京女子医科大学は、明治30（1900）年に創立した東京女醫學校を母体として、昭和27（1952）年に設立されました。ほぼ台地上に位置し、エリアの中央部には女子医大通りが通っています。また、昭和2（1927）年竣工の**歴史的建築物**である旧小笠原伯爵邸や東京女子医科大学旧1号館の**意匠***を継承した建築物などが地域を特徴付けています。



1. 歴史ある建築物



エリアには旧小笠原伯爵邸など歴史的にも景観的にも重要な建築物があり、その保全や活用が必要です。東京女子医科大学彌生記念教育棟は、旧1号館の意匠を継承し建て替えられています。

2. 台地上の高層建築物



このエリアは台地上に位置しているため、エリア内の高層・超高層建築物群は周辺さまざまな場所からよく見えます。

3. 女子医大通り沿いの景観



エリアの大部分を占める大規模施設等は、その周囲を歩く人に対して、快適さや楽しさを提供するような配慮が必要です。

歴史ある建築物を活かし大規模施設群が周囲に溶け込むまちなみへ

台地上に東京女子医科大学など大規模敷地が広がるまちなみを、全体として調和のとれた風格ある景観とする。

景観形成の方針

1. 歴史ある建築物を活かした景観をつくる

景観形成の考え方

旧小笠原伯爵邸やかつての東京女子医科大学1号館などの歴史的に重要な建築物を活かした景観をつくる。

具体的な方策

- 旧小笠原伯爵邸周辺では、都市計画道路*の整備にあわせ、建築物のおもむきと調和した景観をつくる（都市計画道路の喧噪から分断するための、旧小笠原伯爵邸を取り囲む植栽の設置など）
- 旧小笠原伯爵邸周辺では、建築物のおもむきと調和した落ち着いた形態意匠*とする
- 東京女子医科大学周辺では旧1号館から引き継いだ重厚感のある建築物のおもむきと調和した垣・さくとする（生垣・煉瓦塀など）



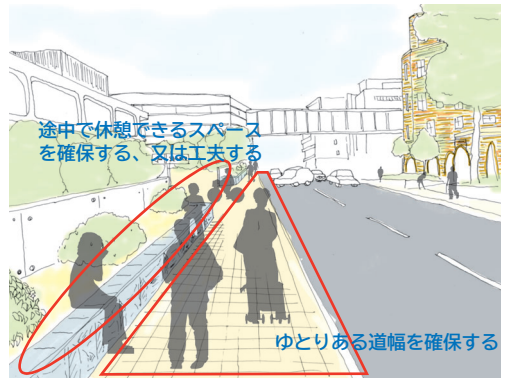
東京女子医科大学旧1号館から引き継いだ重厚感のあるおもむきに調和させる



旧小笠原伯爵邸に調和したまちなみをつくる



歩行者に開放的な公開空地



快適な歩行者空間をつくる

2. まちに溶け込む大規模施設群の景観をつくる

景観形成の考え方

エリア内に多数存在する大規模施設（大学や医療・福祉機関等）の敷地境界を開放的なものにし、周囲を歩く人が楽しめるような景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 道路沿いには十分な広さの空地を設け、樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 屋上緑化や壁面緑化を積極的に行う
- ベンチの設置やバリアフリー化など、誰もが快適に過ごせる公共空間*の充実を図る

3. 女子医大通りの歩行者空間を

歩きやすく快適なものにする

景観形成の考え方

女子医大通り沿いでは歩く人に快適な歩行者空間をつくる。

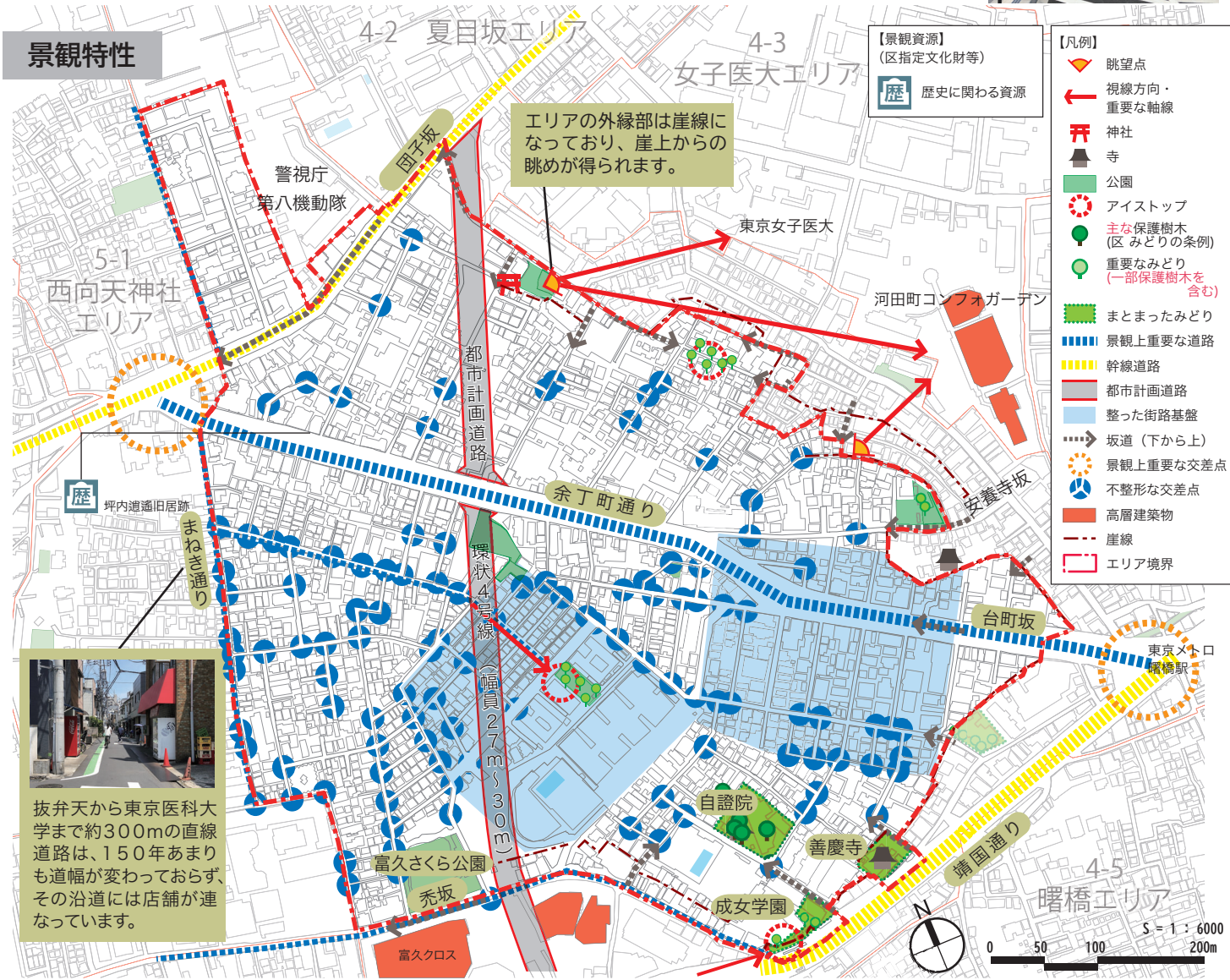
具体的な方策

- 幅員の狭い歩道沿いでは、歩道と連続した歩行者空間をつくる
- 壁面の位置は後退させ、圧迫感を与えないよう配慮する
- 垣・さくは高さを抑え、圧迫感を与えないよう配慮する
- 通り沿いでは、歩行者の足元を照らすような夜間照明の充実などを積極的に行う

4-4 余丁町周辺エリア



江戸時代にはエリアの大部分は武家地であり、余丁町通りの北側では当時の敷地割りが残っています。明治時代には、余丁町通り南側に東京監獄ができました。現在では、余丁町通り沿いの整然としたまちなみや、まねき通り沿いの賑わいあるまちなみがあり、都市計画道路*の優先整備路線となっている場所もあります。



景観特性

抜弁天から東京医科大学まで約300mの直線道路は、150年あまりも道幅が変わっておらず、その沿道には店舗が連なっています。

1. 整った道路景観



余丁町通りは、低木の街路樹が並び歩道も広く沿道の建築物も整然と建ち並んでいます。無電柱化*が完了し、すっきりとした空間となっています。また、まねき通りは江戸時代から幅員も変わっておらず、沿道に小規模な店舗が連続し賑わいある景観となっています。

2. 良好な住宅地



余丁町通りの南北に、みどりと生活感あふれる良好な住宅地が広がっています。また、エリアの外周部は急な斜面となっており、坂道や階段のある変化のある景観となっています。また、エリア内には、行き止まりや小さな交差点が多く存在しています。

3. 過渡期の景観



都市計画道路環状4号線は、現在の良好な住宅地を縦断する形で計画されており、整備が進められています。整備にあたっては、既存住宅地への配慮と良好な沿道景観の創出が必要です。

賑わいと身近なみどりを感じられるまちなみへ

都市計画道路環状4号線の新設による大幅なまちなみの変化にあたって、既存の良好な住環境の保全とともに沿道の賑わいあふれる景観の創出を図る。

景観形成の方針

1. 商店街や幹線道路沿道の賑わいあふれる景観をつくる

景観形成の考え方

古くから商店の連なるまねき通り商店街のまちなみや余丁町通りの沿道を賑わいあふれる景観とする。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部*の賑わいを感じられるよう、1階の軒線を強調した意匠*や開放的な意匠とする
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 色彩や素材は落ち着いたものとする
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 低層部の賑わいを創出しつつ安心感を感じられる照明計画とする



賑わいあふれるまねき通り商店街

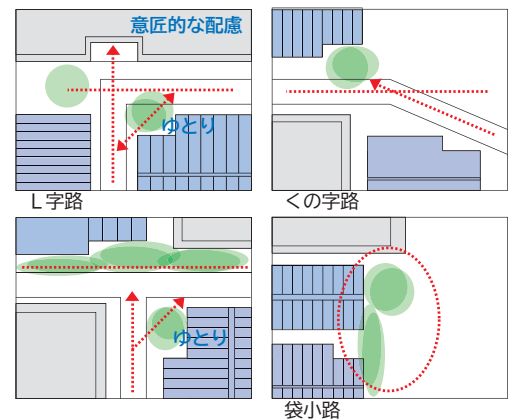
2. 台地上の落ち着いた住宅地のみどりあふれる景観をつくる

景観形成の考え方

エリアに多く存在する路地景観を、身近なみどりがあふれる潤いのあるものとする。

具体的な方策

- 垣・さくなどは生垣とする
- 交差点部や行き止まりの路地などのアイストップ*となる場所では、積極的に緑化を行う
- 斜面地上では、積極的に緑化を行う



アイストップでの積極的な緑化

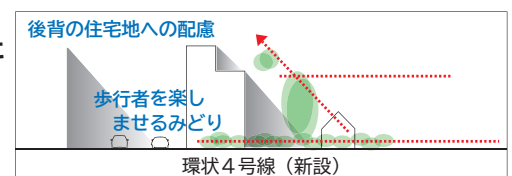
3. 道路新設にあたっては落ち着いた住宅地の雰囲気を活かした景観をつくる

景観形成の考え方

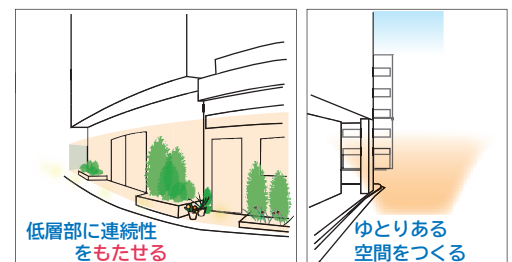
本エリアを縦断する予定の環状4号線沿いは、後背地の落ち着いた住宅地に配慮しつつ、賑わいと快適な歩行者空間の創出を図る。

具体的な方策

- 環状4号線沿いでは低層部は開放的な意匠とし、賑わい空間となるよう工夫する
- 環状4号線沿いではスカイライン*や壁面線の連続性をつくる
- 住宅地側には空地をとり、積極的に緑化する
- 住宅地とのボリュームギャップを解消する(住宅地側は階数を減らし、屋上緑化をするなど)
- 住宅地側に設備機器置き場などを設ける場合は、植栽や外構*などで工夫し修景*を行う
- 交差点部における角地は積極的に緑化するなど空間を有効に活用する



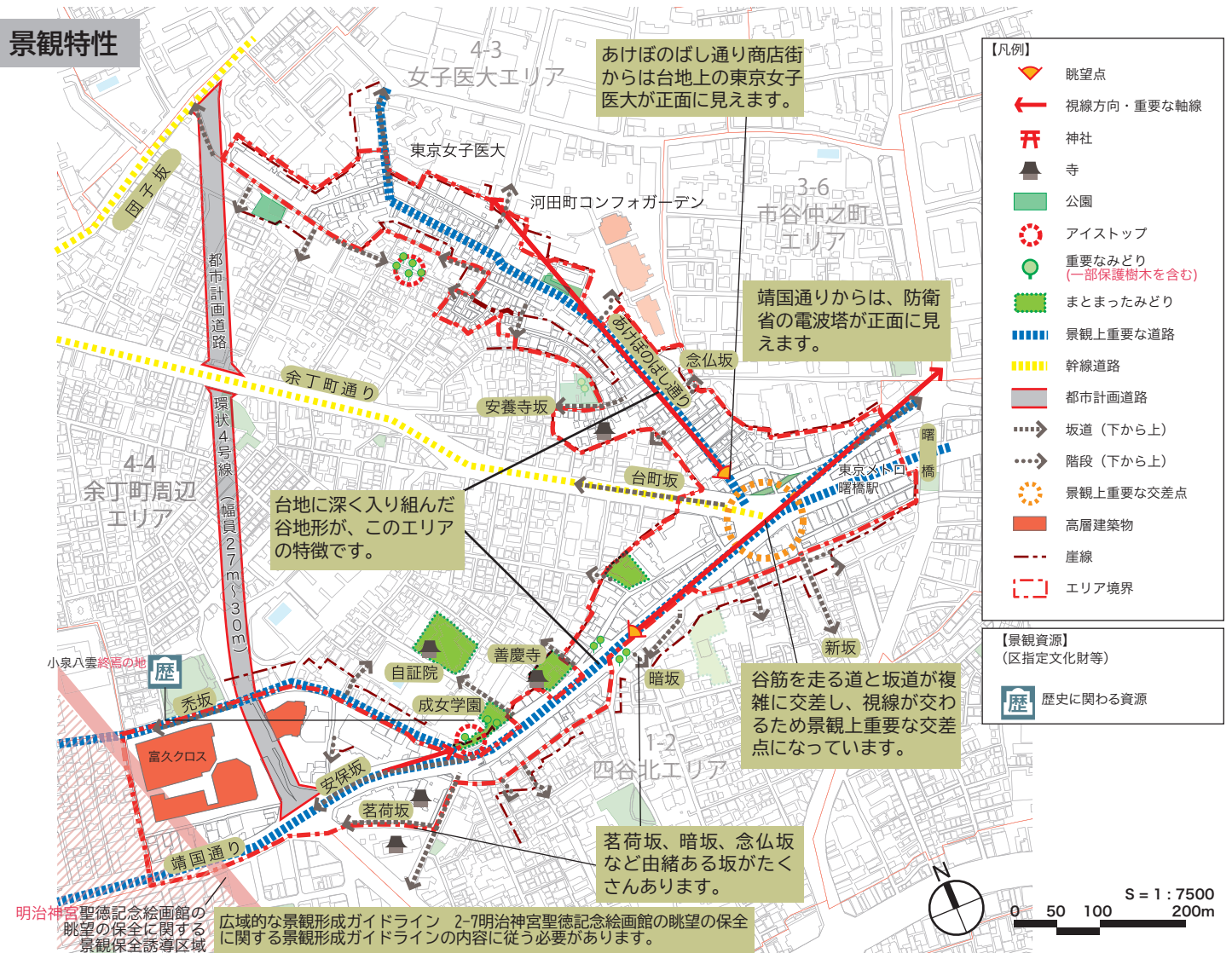
落ち着いた後背の住宅地への配慮



幹線道路と路地の接続部での歩行者空間の工夫

4-5 曙橋エリア

昭和35(1957)年に開通した曙橋は、谷地で隔たれていた牛込地区と四谷地区をつなぎ、区内の道路事情を改善しました。靖国通りとあけぼのぼし通りは、四谷から続く谷地を通っています。靖国通り沿いは、寺社のみどりや坂道、階段により変化のあるまちなみとなっています。また、あけぼのぼし通り沿いには小規模な店舗が建ち並び、賑わいあふれるまちなみとなっています。



1. 谷地沿いの曙橋商店街



谷地沿いに広がるあけぼのぼし通り商店街は、周辺の居住者などの日常生活を支える店舗が連続し、**自然の谷地形に沿い、両側に東西向きの階段が多く見え、周辺住宅地と接続しています。**

2. 靖国通り沿いの景観



谷地を通る靖国通り沿いには、高層建築物が建ち並んでいます。しかしながら、善慶寺などの寺社や成女学園などの学校が斜面地上にあり、その豊富なみどりを谷地から見るができます。**無電柱化*された靖国通り及び西富久エリアの道路幅が広がり、すっきりとした視野の沿道景観となっています。**

3. 谷地から見上げる景観



エリアの大部分が谷地となっているため、外周部の台地上を見上げる景観が特徴的です。靖国通りから伸びる暗坂や、あけぼのぼし通りから伸びる念仏坂などの坂道は、魅力的な景観となっています。**曙橋駅付近の交差点では、自然の地形の高低差が感じられる立体的な道路景観が形成されています。**

あけぼのぼし通りと靖国通りの地形を活かした賑わいあふれるまちなみへ

曙橋駅を起点に広がるあけぼのぼし商店街の賑わい景観と起伏の大きい地形を活かした景観の形成を図る。

景観形成の方針

1. 賑わいあふれるあけぼのぼし通り商店街の景観をつくる

景観形成の考え方

谷地沿いに広がるあけぼのぼし通り商店街は、周辺移住者や近接するビジネス街の日常生活を支える商店街として、歩く人に快適な賑わい空間をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部*の賑わいを感じられるよう、1階の軒先を強調した意匠*とする
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは分節化を図る
- 色彩や素材は落ち着いたものとする
- 角地に位置する場所では、目立つことに配慮し、コーナーの意匠を工夫する
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 低層部の賑わいを創出しつつ安心感を感じられる照明計画とする

2. みどり豊かで落ち着いた靖国通りの景観をつくる

景観形成の考え方

谷地を通る靖国通り沿いの街路樹や点在する寺社や坂道、成女学園等の雰囲気を活かし、落ち着きあるみどり豊かな景観をつくる。

具体的な方策

- 既存樹木を保全する
- 色彩や素材は寺社の雰囲気と調和した落ち着いたものとする
- 靖国通り沿道では、積極的に緑化を図り、みどりをつなげる

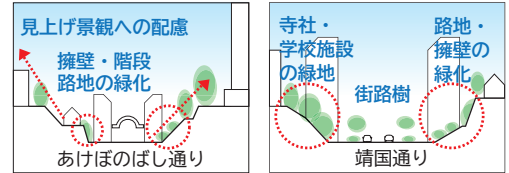
3. 谷地から見上げる眺めに配慮した景観をつくる

景観形成の考え方

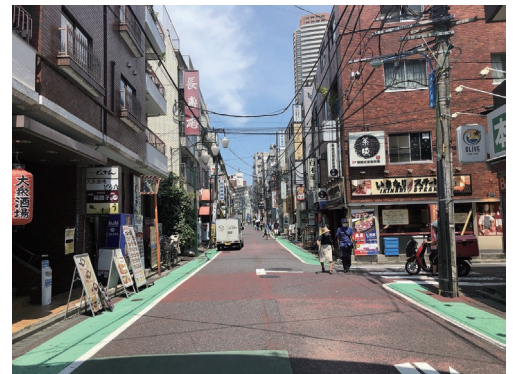
エリアの外周を取り囲む斜面地と台地を見上げる景観に配慮し、地形を活かしつつ、空への眺望を意識した開放的で魅力的な景観をつくる。

具体的な方策

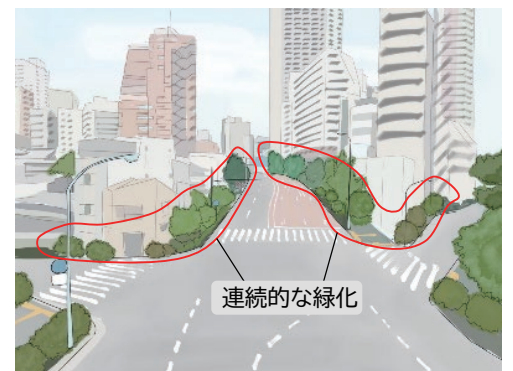
- 擁壁の上部の堀・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（擁壁緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図るなど）
- 坂道・階段沿いおよび谷地側には空地をとり、植栽帯を設ける
- 念仏坂などの途中で折れ曲がる坂道では、折れ曲がり部分などで積極的に緑化を行う
- 壁面の色彩や素材を落ち着いた自然なじむものとする
- 屋上や壁面の緑化を積極的に行う



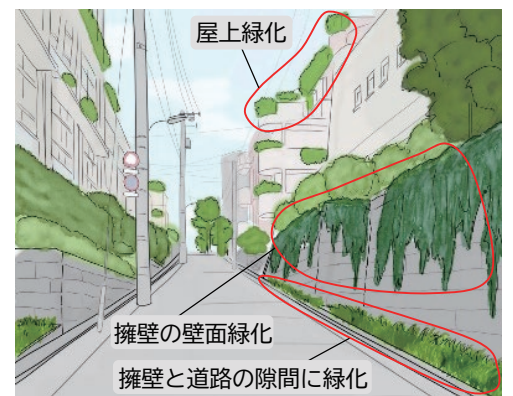
谷地の地形を活かした一体感のあるみどり



賑わいあふれるあけぼのぼし通り商店街



みどり豊かで落ち着きのある靖国通り



谷地から見上げる景観に配慮する